

金谷町

地形概況

大井川右岸の旧河道をもつ扇状地、安田原から南にのびる牧の原台地と周辺の丘陵地、八高山にかけての大代川流域山地などからなる。菊川ぞいの谷底低地と河岸段丘の形成も顕著である。神谷城・切山などの地すべり地も知られる。

地質概況

北部は砂岩・泥岩・砂泥互層からなる三倉層群、安田原から南では牧の原台地がのび、この表層の平坦面は、砂礫層が堆積する。砂岩と頁岩の互層からなる瀬戸川層群や倉真層群、砂泥互層の掛川層群などが基盤となって、台地周辺の丘陵地を形成する。

気象概況

年平均気温は推定 14.5℃と低く、牧の原台地では遠州気候区に入り、台地と平坦地との温度差が大きい。年平均降水量は推定で 2,400mm と全県の平均であって、春から夏季にかけて全降水量の約半分に達する。

災害事例 地震

- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震 M=7.9
県中・西部の被害が大きかったが、当地では比較的軽微で震度 5 程度であった。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下に被害があったが、当地では金谷宿で家屋倒壊し圧死者も出た。また土地が亀裂して泥水を吹き出した。本町より河原町迄皆潰れという。しかし菊川は軽微であったようである。震度は川原町で 6～7、金谷宿で 6、菊川で 5 であった。
- 1707 年 10 月 28 日（宝永 4 年）宝永地震 M=8.4
全県下に被害があった。金谷宿では午下刻に大地震があり町中大破したが、全壊は 5 戸で人馬に怪我はなかったといわれる。震度は 6 である。

災害事例 台風

- 1982 年 9 月 12 日（昭和 57 年）台風 18 号
全県下風水害があり、当地では行方不明 1 人、負傷者 1 人、床上浸水 273 戸、床下浸水 1,081 戸であった。
- 1954 年 9 月 18 日（昭和 29 年）
全県下特に中・西部で風水害が大きかった。被害は全壊 3 戸、流失 2 戸、床上浸水 1,000 戸、堤防決壊 3 箇所、橋梁流失 3 箇所などである。
- 1910 年 8 月 7 日（明治 43 年）
全県下特に中・西部で被害が大きかった。金谷での 4 日間(7～10 日)の雨量は 854mm に達した。
- 1828 年 8 月 10 日（文政 11 年）
洪水で大井川その他河川の堤防が破れ、人家流失し人畜の死傷も多数あった。田畑百余町歩が荒廃した。

災害事例 豪雨

- 1959 年 8 月 26 日（昭和 34 年）
当地の被害は行方不明 1 人、全壊 5 戸、半壊 7 戸、流失 26 戸、床上浸水 2,344 戸、
床下浸水 2,400 戸などであった。
- 1941 年 7 月 12 日（昭和 16 年）
県下全般に大雨となり、浸水家屋は、床上 100 戸、床下 400 戸であった。
- 1938 年 8 月 2 日（昭和 13 年）
金谷で日雨量 310mm に達した。